

**平成 28 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談 (明和町) 会議録**

1. 対談時間

平成 28 年 9 月 13 日 (火) 10 時 00 分～11 時 00 分

2. 対談場所

明和町中央公民館 2 階 視聴覚室
(多気郡 明和町 大字馬之上 944-5)

3. 対談市町名

明和町 (明和町長 中井 幸充)

4. 対談項目

- 1 齋宮跡復元建物の維持管理と活用及び日本遺産を契機にした広域観光について
- 2 漁業振興対策 (アサリ復活、黒のり養殖調査研究、後継者対策) について

1 挨拶

知 事

今日は、大変お忙しい中、お時間をいただきましてありがとうございます。

まず、先般の 5 月 26 日、27 日の伊勢志摩サミットにおきまして、明和町の皆さんにクリーンアップ活動、あるいは、花いっぱい運動で大変お世話になりましたこと、あらためて感謝を申し上げます。

また、伊勢志摩サミットの 1 カ月前に行われましたジュニア・サミットにおきまして、参加者の交流の場として明和町を訪れさせていただき、皆さんにおもてなしをいただいたことに、改めて感謝を申し上げます。

明和町では「祈る皇女齋王のみやこ 齋宮」の日本遺産の指定を受けて、さまざまな取組をいただいていると聞いております。我々としても、サミットで各国首脳が伊勢神宮を訪問し、7 月 8 月の伊勢神宮への参拝者数が概ね 23% 増になっている中で、齋宮は、それと関連する大変重要なコンテンツであると思っております。ぜひ、連携して情報発信に努めていきたいと思っておりますので、限られた時間ですが、今日は、どうぞよろしく申し上げます。

明和町長

おはようございます。今日は「1対1対談」ということですが、私、喉を痛めていますので、こういう形で恐縮です。先ほどご紹介いただきました伊勢志摩サミットは、大変ご苦労さまでした。我々も、花いっぱい運動とか、あるいは私どもの太鼓のサークルがございまして、太鼓を演奏して盛り上げていこうという取組も行われました。また、ジュニア・サミットでは、いつきのみや歴史体験館を会場として使っていただいたことで、PRもできたと考えております。そういう意味で伊勢志摩サミット、我々も折角の機会ですので、なんとか、この絶好の機会をどのようにつなげていくか、知恵を絞っていきたくと考えております。お願いばかりになるかもわかりませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2 対 談

(1) 齋宮跡復元建物の維持管理と活用及び日本遺産を契機にした広域観光について

明和町長

この問題につきましては、昨年も提案を申し上げたところでございます。昨年の9月26日に復元建物の竣工式、それから、10月24日、「さいくう平安の杜」のオープンから、ちょうど1年が経過する中で、見直しだとかいろいろな対策を練っていく上で気づいた点がございます。齋宮歴史博物館ともいろいろ協議させていただいておりますが、知事にも、ご理解をいただきたいと思っておるところでございますので、くどいじゃないかとおっしゃるかもわかりませんが、お許しをいただきたいと思っております。

イベントなども含めて、1年間を通じて、ざっと3万人から4万人ぐらいのお客様が来ているということが、今の明和町齋宮に対する評価かと思っております。特に大阪とか中京圏の名古屋だと、どうしても日帰りコースになるのかもわかりませんが、大阪からは観光会社による「どこどこ観光」という形で、バスでのお客様も徐々に増えてきております。これはサミットの効果もあるのかなということでもあります。齋宮だけというわけにはまいりませんので、伊勢神宮との関わりということで、徐々にですが、知名度も上がってきたと思っております。

町としましては、さらにと期待するところであり、いつきのみや地域交流センターを国土交通省の歴史まちづくりの事業の支援を受けてやっていきたいと考えております。これが大体150人から全部で300人ぐらいは収容できる施設として、今、整備中でございます。

そういったところで、私どもはさいくう平安の杜、こういった、いつき

のみや地域交流センター、この中に観光案内所もつくっていききたいということで、一体的なものとして施設整備を何とか考えていきたいと思っておるところです。

そんな中で、困ったことと申しますのは、せっかく実物大の建物を復元していただいたのですが、これは正殿の前ですが、水たまりが、水はけに難があるということです。今朝ほども見てきましたが、昨日の雨の際と同じような状況になっていました。至る所という大変ですが、どうしてこういうふうになったのか調査をしてみないとわからないわけですが、イベントをやろうと思っても、水はけが悪いと、天気は晴れていても足下がぬかるんで、来ていただく方に迷惑がかかるのかなということです。

東からの進入路の所は、整備当初は同じような状況でしたが、斎王まつりや他のいろいろな行事もありますので、これではいかんということで、なかなかお願いしていてもというお話もあり、県に迷惑はかけられないので、町の単独事業で整備をさせていただきました。

芝生広場も段々と落ち着けば、こういう事態が解消されるのかなという思いもしますが、1年経ってこんな状況でございますので、抜本的に何か水対策を考えていかなければならないと思っ、斎宮歴史博物館にもご相談を申し上げます。

一つ、どうしても県のほうでお世話いただきたいのは、いつきのみや地域交流センターから、さいくう平安の杜に至る通路です。他のところの雨対策はこれから考えるといたしましても、駐車場などの関係、障がい者の車椅子の関係もございしますので、いつきのみや地域交流センターから正殿へ行く間の通路、何とかこのところ、いつきのみや地域交流センターから実物大の建物の復元に至る通路の整備を県のほうでお願いできないかと思っています。町のほうでも、歴史まちづくりの事業だとか、あるいは日本遺産という形で、これからいろいろ国の支援を受けながら周辺を整備していきますが、文化財の中ですので、なかなか手がつけられないというか、国土交通省に相談させてもらっても、これは文化財（史跡整備事業地）の方で対応してくださいと言われて、前へ進まないという状況があります。

それから、維持管理につきまして、何とか支援をお願いできないかということ。さいくう平安の杜の整備の前、知事が就任される以前から、この維持管理については、なんとかならないかということで県当局にはお願いをさせていただいております。この斎宮の整備が本格的に始まったのが、昭和53年度当時でございます。昭和54年3月に国の史跡の指定を受ける前の段階で、施設整備のあり方や、その後の維持管理について、当時の町のトップが県のほうといろいろとお話をされておりました。その当時は、吉原副知事が就任されておりましたが、施設の整備については、町で

直接というのは無理があろうから県で、それから、公有地も含めて維持管理は町が行うこととされました。斎宮歴史博物館は県でお願いしておりますが、それ以外のいつきのみや体験館とか、あるいは斎宮歴史ロマン広場といったところは、町が県の支援をいただきながら維持管理を行い、今日に至っております。

さいくう平安の杜の整備の際には、当時は安田教育長でしたが、建物を建てると後の維持管理が大変だから、県としては賛成できないということで、整備について随分とゴーサインが出なかった話もあります。

当時、野呂知事でしたが、鈴木知事が受け継いで完成していただきました三重県総合博物館の整備について、県議会の中でも賛否両論がありました。そういう中で、斎宮跡の実物大建物の復元もなかなか手がつけられなかったというのが現実だったかと思います。

その後、鈴木知事が就任され、ご理解を得る中で話が進み、平成 25 年 9 月、実際に事業にかかるとき、県財政の状況を考えると、さいくう平安の杜の整備はするが、維持管理は町で行うようにとされました。先の昭和 53 年の約束事、以降のいつきのみや体験館の整備、復元建物の整備等々の際に、維持管理は町で何とかするようというお話をいただいてきており、現在も、その基本路線を崩すことができないとお話しいただいてはおります。町としてもその路線を受けた上で、住民の要望に応える形で復元建物の整備をお願いした経緯がございますので、今さら何を言うのかという話で、ちょっと厳しいかなという気もしますが、一方で、さいくう平安の杜の維持管理は、私どもの試算で年間 600 万円程かかります。また、町としては、いつきのみや地域交流センターの整備などいろいろな整備をやっていく中で、維持管理そのものが、このさいくう平安の杜だけではなく、いろんな面でボディブローのように効いている実態がございます。

当時の竹内環境生活部長には、直接的に維持管理はできないが、いろいろな県事業をそこに張り付ける形での支援策は考えていかなければとお答えいただいております。この間も総務部長から町村会で、県財政が大変厳しいことをお話ししていただき、財政的な支援が厳しいことは承知してはおりますが、我々としては、何とかならないかということで、この機会を通じて、再度、お願いをしております。

次に、知事のお手元に資料をお渡しさせていただきましたが、町では今、国土交通省が進める「歴史的風致維持向上計画」の認定を平成 24 年の 6 月に受けて、いろいろと斎宮跡に関する事業を展開し、来訪者アップにつなげるため、トイレや広場、先ほど申し上げました、いつきのみや地域交流センター、道路、案内看板といったものの整備を進めております。

それと合わせまして、昨年、日本遺産の認定を受けましたので、日本遺

産魅力発信推進事業という形で支援を受けた取組も進めております。

その中で、知事に一つお願いを申し上げたいのは、Wi-Fi 環境の整備を今、明和町で進めております。その中で、ステーションとしていくつか、ふるさと公園とか役場もそうですが、斎宮跡歴史ロマン広場とかの中で整備を進めさせていただいており、私どももようやく周辺の整備ができてきましたが、斎宮歴史博物館ではなかなか予算取りが難しくて整備ができないと聞いております。今、もう一つ取り組んでいますのが、VR（バーチャルリアリティ）です。知事にも見ていただきたいのですが、メニューとしては、儀式などです。まだテストの段階ですが、これも整備を進めておりますので、ぜひ、Wi-Fi 環境の整備を斎宮歴史博物館でもお願いしたいと思っております。

それから、日本遺産や歴史まちづくりの事業の中で、プロモーションビデオを制作しました。また、近畿日本鉄道に協力をいただいて、ラッピング電車を名古屋線と大阪線に走らせていただいております。多くの方の反響を呼んでおまして、この電車に乗りたいということで伊勢神宮なり、斎宮に行こうというお客様が段々増えてきています。また、三重交通にもお世話になり、観光バスの後ろにラップを施して、観光地を巡らせていただいております。それから、外宮と内宮の循環バスにもラップを施して、来ていただく観光客の方に見ていただいております。

こうした取組で、斎宮へ行こうかというお客さんは段々と増えてきているというのが今の実態です。

そうした中で、ラッピング列車を名古屋へ走らす中で気がついたことがあります。東京に対しては、知事にお世話になりまして、三重テラスで随分といろんなPRをいただいております。そして東京事務所がある。それから、関西には大阪に関西事務所がある。ところが、よく考えてみますと、名古屋というのは三重県の拠点施設が見当たりません。私どもも観光PRは、金山などいろんなところでやりますが、どうも愛知県や岐阜県と連携して何かやろうかという、イベントを探してやっていかなければなりません。県が中心になって各市町の取組を束ねていくセクションがどうも見当たらないと思っております。ほかのところではやってみえるのかとは思いますが、名古屋を拠点としたセクションがほしいということで、何とか考えていただけたらと思っております。

あわせて、国土交通省中部運輸局が「昇龍道」というプロジェクトで、北陸から三重県では熊野まで、そういったところを一つのネットワークとして、観光客の誘致を図っていく取組を進めており、三重県も加入していただいております。3月には石垣副知事と観光誘客課長が出席されてたということですが、国土交通省が中心になっておられますので、観光局とど

う結びつけてみえるのか、あるいは海外誘致・誘客のセクションとどう結びつけてみえるのか、よくわからない部分があります。

また、三重県では私どものほか、亀山市、伊賀市が歴史的風致維持向上計画の認定を受けていますが、高山市や犬山市、岐阜市などと「中部歴史まちづくりサミット」の開催を続けてきております。

私どもも、先ほどからお話させていただきましたが、いつきのみや地域交流センターが国土交通省の支援を受けておりますので、平成29年に、このサミットをやりたいということで、取り組み始めており、知事にもお越しいただきたいと思っております。せっかく中部運輸局がやろうと言っていていただいておりますし、伊勢志摩サミットの効果を何とかつなげていきたいと思っておりますので、こういったところにも力を入れていただきたいと思っております。

今日の新聞でも伊勢志摩国立公園に改めて知事が力を入れられるという話を聞きました。また、歴史まちづくりの事業に関わる市町も徐々に三重県内で増えてくる状況で、松阪市もやりたいというような話をお聞かせいただいておりますので、さらに連携が段々つながっていくのではないかとと思っております。

メディアでのPRも、三重テレビに一生懸命やっただいて、毎月第4土曜日の夜9時から10回シリーズで応援をいただいております。シリーズ全10回が終わったら、これを熊野古道がやったように一つにまとめて、BSフジなどいろんなところへPRをしていきたいとお聞きしております。三重テレビも関西とか関東のほうでネットワークを持っておりますので、このシリーズもそういう形で放映いただいているとお聞きしています。

段々と伊勢志摩国立公園の話だとか、来年のお伊勢さん菓子博2017だとか、とこわか国体だとか、知事のご努力下、この伊勢志摩地方に今、さらにいろんな目が向けられております。私どももこの機会を逃すことなく、何とか取組を強めていきたいと思っております。そういう意味で、何とか今申し上げましたことを、わがままとも言われると思っておりますが、お考えいただいて、ご支援をいただけたらと思っております。少し長くなってしまいましたが、何とぞ、よろしくお願ひしたいと思っております。

知 事

ありがとうございます。何点かあったと思っておりますので、順番にいきます。

まずは水はけ対策と、いつきのみや地域交流センターから、さいくう平安の杜に至る通路のバリアフリー、そのあたりの話ですが、水はけ対策については、来場者の方の快適な見学環境を維持する方策を、ぜひ協議しな

がら検討したいと思います。

いつきのみや地域交流センターから、さいくう平安の杜に至る通路のバリアフリーとか、維持管理に対する財政的支援につきましては、原則として、まさに町長がおっしゃったように、昭和 53 年と平成 22 年の業務分担の合意がありますので、それを崩す理由はなかなか見出しにくいというのが正直なところですが、例えばバリアフリーだとか、いろんな国の事業などもありますし、県のいろんな事業などもあると思いますので、いきなりお金を出すという答えの前に知恵を出したいと思います。一緒になってお金を出す前に知恵を出すという感じで、まず、いろいろ一緒に議論をさせていただけたらと思っています。基本的にはその合意を変える状況にあるとは思っていない中ですが、せつかく整備したものですから、使えないと意味がありませんので、知恵を一緒になって出していきたいと思っています。

2 点目の斎宮歴史博物館の Wi-Fi 環境整備ですが、地方創生の加速化交付金を使って整備しようと思ったのですが、申請が国に認められなかった状況です。次の地方創生の加速化交付金からは、今までソフト事業しかだめだったんですが、ソフトに対応するちょっとしたハードの整備も対象になってきます。斎宮歴史博物館の中での Wi-Fi 環境に関する整備の費用と維持管理の費用や利用見込み、こういうものを含めて議論をした上で、申請を出していくか考えていけないと思っています。

あと、調べてみると、建物の構造上、たくさんのアクセスポイントを館の中につけないといけないらしくて、そうすると維持管理費が結構増える可能性があるらしいです。我々も調査をしてみたらそんな感じだったので、今、申し上げたような整備の費用、維持管理の費用、利用見込みを見極めて対応を考えたいと思います。

とはいえ、それで手をこまねいていてもいけませんので、まず今年度、多言語対応の解説パンフレットを作成するという事で取り組んでいます。それから、この多言語情報を活用して、スマホとか皆さんがお持ちのタブレットなどのモバイル端末に対応して、斎宮歴史博物館の展示をガイドしてもらえるシステムの整備に、今年度末をめどとして取り組んでいます。今、進捗を聞いていませぬのでどうなるかわからないですが、例えば QR コードとか、あるいは、伊勢神宮では、せんぐう館に紙が置いてあって、それに電子ペンで操作をすると、英語で説明をしてくれるものとだか、いろんな形がありますので、スマホなどを使って展示をガイドしてもらおう仕組みを今年度末まで考えようとしています。まず、今年度はそういう取り組みをさせていただいた上で、Wi-Fi 環境については、申し上げたようなことを考えていかなければいけないと考えています。

それから、3点目は、中部圏へのPRですが、三重県内への観光客は県内からが一番多くて、次に関西圏が多く、次いで中部圏が多いので、中部圏は非常に重要なポイントであります。

一方で交通の便が良いので、拠点を設定するところまではいかないのかなと思っていますが、一部、三重交通の名古屋駅前のビルの1階で、平成23年度から「桜通りカフェ」というのをやらせていただいています。そこで三重県の食材を使った食べ物とか、あるいは観光の案内とか、あるいは物品の展示などをしております。今、13市町の皆さんに協議会に入っていて、三重の観光営業拠点事業として、少しだけ負担金をいただきながら、加盟いただいている市町を売っていく取組もやらせていただいております。もしよろしければ、そういうものをぜひ活用いただいて、桜通りカフェ、それから、あとは、名古屋駅内に名古屋のPRをする場所があるらしいので、利用できるかどうかわかりませんが、いろいろな機会を捉まえていただきたいと思います。

拠点という形は、申し上げたようなことですが、名古屋方面、中部圏方面への発信は強めていかないといけないと思っていますので、例えば、この前、食の国際大使というものにフレンチの三國清三さん、中華の脇屋友詞さん、和食の徳岡邦夫さんに就任いただいたのですが、名古屋のマリオットアソシアホテルに三國さんのレストランがあり、そこで12月20日に、三國さんと脇屋さんのコラボで、300人ぐらいの方を招待して、三重県の食材を使用してPRする、クリスマスディナーショーのようなものを開催してもらおうようです。そういう縁のある人たちのところを拠点的に使わせてもらうなど、知恵を出しながらやっていきたいと思えます。

4点目ですが、昇龍道と歴史まちづくりの連携については、僕らももう少し歴史まちづくりの要素を昇龍道の皆さんに共有し、ルートにしっかり入っていくようにしていかないといけないと改めて思っています。例えばフードツーリズムとかアグリツーリズムとか、いろんなツーリズムがあると思えます。今回、文部科学省で日本遺産を進めてもらいましたが、農林水産省では日本農業遺産というものに取り組んでいますし、食と農の景勝地というものも進めています。そういういろんなツーリズムがありますので、そういうものも含めて、一定のルートづくりや情報発信ができるように、しっかり取り組んでいきたいと思えます。

先般、松阪管内では、中井町長にも参加いただきましたが、ドンキホーテの中村さんに来ていただきました。中村さんは日本のインバウンドの第一人者ですが、首長の皆さんが、長い時間、一緒に議論を徹底的に交わすなど、非常に関心が高いことを、高く評価されており、その直後に開催された日経新聞主催の講演会でも、そのことを早速紹介したと仰っておられ

ました。そういう積極的な取組をしていただいている地域ですので、こうした方のアドバイスも受けながら、うまくルートに入るように情報発信をしっかりとっていきたいと思います。

それから、三重テレビのお話もありましたが、メディア対策もしっかりやっていきたいと思います。メディア、とりわけテレビで紹介されることの観光への影響は非常に大きいと我々も実感しています。あと、今度、私の定例記者会見のときに、今回のサミットの経済効果のようなものを発表しますが、海外メディアでも洞爺湖と比べて相当増えており、パブリシティ効果が出ています。結果、今日もどこかで報道がありました。サミット以降、例えば、海女が取り上げられたので、海女の取材がこれまで月数件だったものが30件ぐらいに増えたりだとか、そういった状況になっています。イタリアのフォトグラファーが来たりということもあるようなので、そういうメディア対策もしっかり取り組んでいきたいと思います。いずれにしても、大事な斎宮、日本遺産にも認定されていますから、本県の誇る有数の歴史文化遺産ですので、しっかり情報発信に、知恵を出して取り組んでいきたいと思います。

明和町長

ありがとうございます。いろいろ難しい点はあるかと思いますが、よろしくお願ひしたいと思います。

ただ、1点、Wi-Fiの部分は、総務省から、観光だけではなく南海トラフの地震対策、防災対策ということも含めて、全町的に取り組んでほしいという要請をいただいております。そういった点もふまえて何とか取組をよろしくお願ひしたいと思います。

(2) 漁業振興対策（アサリ復活、黒のり養殖調査研究、後継者対策）について

明和町長

2点目は、漁業の振興策ですが、私ども、2カ所、大淀と下御糸という漁港があります。今、伊勢湾漁協として統一されていますが、近年、アサリと黒のりでガタッと漁獲量が落ちてきているという実態があります。

東日本大震災があったときには、伊勢湾も津波で随分と荒れました。荒れたおかげで、翌年にアサリが大量発生したという話も聞かせていただきましたが、年々、漁獲高がまた減ってきているというのが実態でございます。これは海水の温度だとか、あるいは海水の栄養分の不足だとかいろいろ

ろ言われており、また、採り過ぎだということも言われています。

先日の新聞で、鈴鹿市漁港さんが稚貝は絶対とらないこととし、大ききで制限をして、必ず海に戻す取組をやられている中で、ことしの3月ぐらいでしたか、確かアサリはきちっと採れたという話も聞かせていただいています。しかしながら、生き物ですので、稚貝の放流をしてもどこへ行くかわからないというような状況も見られ、漁獲量の減少原因がどこにあるのかということが、なかなか漁業者の皆さん方ではつかみにくいというお話をいただいております。その結果として、組合員数が段々と減ってきているという部分もございます。以前は全体で300軒ぐらいでしたが、今年でいきますと、准組という組合員さんもおみえになりますが、正規の組合員さんで、のりとアサリ、あるいは、ほかの漁業の部分を含めても38軒しかいない状況で、下御糸では正規の組合員さんが6軒しかないという状況に陥ってきております。

セントレアができたので潮の流れが変わったとか、木曾川でもそうですが、蓮ダムができてから栄養分のある水が流れてこないといったことが、漁業者の間では言われていますが、正直なところ、原因はわかりません。このままでは、もうやめてしまおうかという漁業者が多くなります。これは今日言って、明日に解決できる問題ではないと思いますが、何とか県のお力を借りて原因究明だとか、新たな対策といったものに、昨年も確か申し上げたかと思いますが、改めて本腰を入れてお考えいただけないかと、対策を練っていただけないかというお願いをさせていただくということで、よろしく願いいたします。

知 事

ありがとうございます。アサリは特に伊勢湾全域で激減しているというような状況で、我々としても非常に危機感を持っています。

今年度から三重県アサリ協議会の皆さんと一緒に、「伊勢湾アサリ復活プロジェクト」を立ち上げています。内容としては、モデル地区をつくって、そこでアサリの稚貝の移植、場所を移して放流するところから、母貝まで安定的にどうしたら育成できるかというマニュアルを作って、それを横展開していこうとしています。原因究明というか、今の環境の中でどうやったらうまくいくかというマニュアルを作っていこうという取組と、あと、干潟の造成もやっっていこうということで、ちょうどこの8月から稚貝の移植、安定的に育つところに移植するようなことも始めたところがあります。何とかアサリをと、今、町長がおっしゃっていただいたように危機感を高く持っていますので、この伊勢湾アサリ復活プロジェクトにより、何とか成果を出していきたいと思っています。

黒のりについても、昨年度、「浜の機能再編広域プラン」を作って、機器の導入などをしておりますが、明和町でも、本年度は8名の方が黒のり養殖に用いる船外機等を導入されている状況であります。これまでも進めています水温とかプランクトンとかの漁場関係情報の提供だとか、病害診断などをやらせていただいて生産を支援する取組、また、今度、菅島でやりますが、黒のりの共同加工施設など、あと、市場で高い評価を受けているアサクサノリの安定生産であるとか、そういったいろんな知恵を絞り出していきたいと思っています。

担い手の確保については、漁協の皆さんが開設する漁師塾などを支援させていただいておりますし、就業をめざす若者等を対象に、漁業関係法令や資源管理等に関する知識を学ぶ講習会も開催させていただいております。この講習会の参加者は、国の青年就業準備給付金を受けることができるようになりました。今後も、より所得が増えるような、新規就業がしやすくなるような形の制度設計でいろんな担い手確保のための取組をしていきたいと思っています。

いずれにしましても、アサリや黒のりは、明和町のみならず、三重県を代表する重要な水産物ですので、しっかり危機感を持って取り組んでいきたいと思えます。

明和町長

以前、知事が、すごいやんかトークで大淀の人たちと意見交換をしていただいたとかと思います。そのときのメンバーが、大体60歳から、その上ぐらいの歳で、いまは、その息子さんたちが跡を継いでくれるかどうかというところで、非常に心配してみえるというのが現実の話であります。

菅島の漁協さんの協業化など、今まで個人でやられてきたものを、漁協が一体となって取り組んで養殖から製品化までしていく分業のような形を、私も組合長さんから少し聞かせていただいたので、地元には話していますが、今まで個人でやってきたものだから、いろいろな問題があるのでといっても、なかなか前へ進まないというのが現実です。

しかし、このまま放っておけば、後継者が育たない中で、やがて消えていくのではないかと心配していますので、何とか県でも、ご紹介いただいたような取組に力を入れていただいて、伊勢湾内のアサリやのり漁業が、これからも続けていけるように、ご尽力いただけたらと思えます。

いつきのみや観月会について

ご案内のように第16回を数えます「いつきのみや観月会」を、9月17

日に、さいくう平安の杜あるいは、いつきのみや歴史体験館を会場に開催します。昨年は、復元建物のオープニングと同時開催とさせていただきましたが、多くの方に来ていただき、楽しんでいただきました。今年は、満月が15日ですので2日ほど遅いのですが、17日の土曜日に開催します。少しばかりお天気が心配ですが、チラシのような催しを行いますので、知事もお時間がありましたら、寄っていただけたらありがたいかと思えます。

斎王まつりのときは、大変お忙しい中、お時間をいただきまして御挨拶いただき、ありがとうございました。やはり知事が来ていただくと、場の雰囲気ぐっと盛り上がります。お忙しい中ですが、ぜひ、いろんなイベントに、これからも時間を見つけていただいき、少しでも良いのでお寄りいただければと思います。

交通安全のための道路等の整備について

私どもでは、毎年5月に全地区の自治会長さん、区長さんに集まっただいて、全町自治会長会議を開催しております。そういう中でいつも出てくるのが子どもたちの交通の安全ということで、道路整備とか信号の整備といった要望をいただきます。

そういう要望を受けて、松阪建設事務所、あるいは松阪警察署に信号等の設置要望を出させていただいておりますが、道路予算あるいは信号の予算が厳しいという話を、いつも松阪警察署の署長さんからいただきまして、なかなか整備が追いつかないという現実がございます。特に明和町は、県道の延長が非常に長いということですので仕方がないかとは思いますが、以前に手掛けていただいた舗装や道路側溝といったものの老朽化に対して、その再整備といいますか、そういう時期にも当たっているのかなということ。松阪建設事務所長からも、維持管理費用については明和町に大半を注ぎ込んでいるというお話をいただいておりますが、先ほども言いましたように、延長が非常に長いので、予算の範囲でしか整備ができないということだそう。新規に必要な部分は、これからも予算を付けていかなければならない中で、従来の交差点改良といったものについては、どうしても遅れがちになるというようなことも、松阪警察署長に言われておりますし、予算が付けばやっていきたいというお話もいただいております。

何とか予算を付けてやってくださいとしか言いようがございませんので、松阪警察署あるいは松阪建設事務所と相談をしてまいります。予算が厳しい、その一言をいつも言われておりますので、よろしくお願ひします。

松阪管内は交通事故、死亡事故が多く、明和町でも今年になってから既に3人の方が亡くなられていることをふまえると、まだまだ改良をしてい

く余地があるかと思っております。町道も徐々に整備しておりますので、県道の整備のほうをよろしくお願ひ申し上げたいと思ひます。

知 事

ありがとうございます。今、最後に町長がおっしゃっていただいたように、県全体として今年度は交通事故の死亡者が増えているので、6月1日に三重県警本部から交通安全の警報を発令させていただきました。県警本部長も、非常に危機感を持っておられます。これから予算議論が始まっていきますので、よく議論したいと思ひますが、全てが満額というのはあり得ない話なので、どこを優先的に整備をしていくかというのは、明和町さんとも、よくご相談をさせていただければと思ひます。

3 閉 会

知 事

中井町長、今日は、どうもありがとうございました。

お体もご自愛いただいとと思ひますが、今日も重要な、まさに整備した平安の杜をいかに生かしていくかという話と、深刻化している水産業の話ということで、極めて明和町にとって大きな重要な課題を議論させていただきました。今日、いただいたご意見をしっかりと受けとめて、今後、検討していきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。

今日は、どうもありがとうございました。